

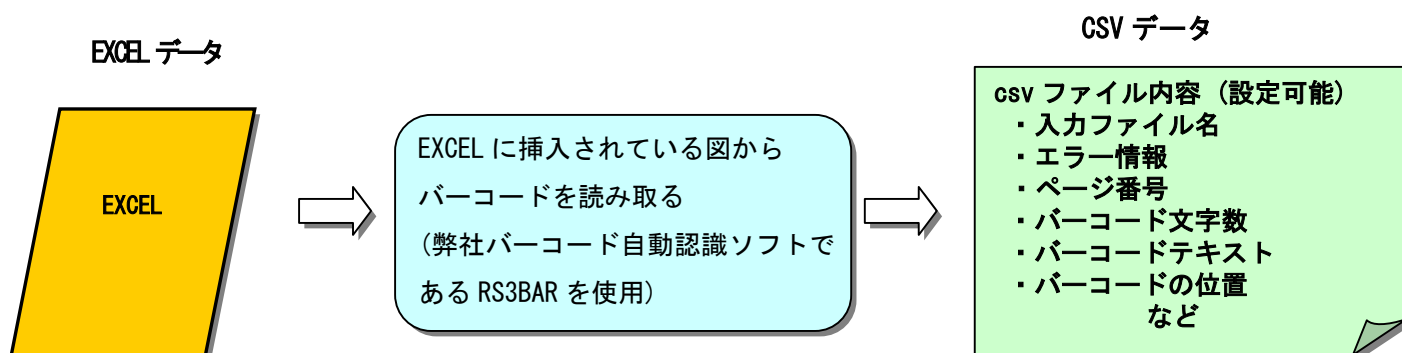
EXCELデータから バーコード情報読み取り (XLS3BAR)



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

EXCEL データ内に存在するバーコードから情報を読み取り、CSV ファイルで出力する。



特長

- ・認識可能なバーコードは CODE39, CODE128, GS1-128, JAN/EAN-13, JAN/EAN-8, ITF, NW-7, 郵便カスタマーバーコード, QR コード, GS1 DataBar, PDF417
- ・読み取り範囲 (全景も可能) 指定が可能
- ・コマンドラインからバッチ変換が可能。同一フォルダなら一括して全て変換可能。
- ・属性ファイルでバーコードを認識する場合に様々な設定が可能です。
 - ① 検出するバーコードの桁数を指定。
 - ② 検出するバーコードの桁数の範囲を指定。
 - ③ 検出するバーコードの各桁の文字種を指定。
 - ④ 出力するバーコード情報の書式を指定。
 - ⑤ スタート/ストップキャラクターの取り扱いを指定。
 - ⑥ ディザノイズの除去。

操作説明

XLS3BAR は、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じように、コマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込む事が出来ます。Windows の場合は、「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。

属性ファイル

変換を始める前に、変換に必要な情報を属性ファイル上で設定します。
以下の属性ファイルでバーコード認識をする際に必要な情報を設定します。
通常、基本的な初期値があらかじめ設定されています。

```
xls_bar_in.atr ----- EXCEL 入力設定属性ファイル  
xls_bar.atr ----- バーコード認識設定属性ファイル
```

実行例

バーコード読み込みを実行するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

実行モジュール名 入力ファイル -0 出力ファイル(*.csv) ー各オプション

例 1 : 入力ファイル[BarSample.xls]の全範囲を検索し、通常の方法で全てのタイプのバーコードを読み取り、
バーコード情報を出力ファイル[tes.csv]に出力します。

> XLS3BAR BarSample.xls -0tes.csv

XLS3BAR : 実行モジュール名
BarSample.xls : 入力ラスタデータ名
tes.csv : バーコード情報を出力するファイル名

-0 : 変換結果を出力するファイル名を指定するオプション。
マイナス記号とアルファベットの「オー」です。-0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定する事は出来ません。

※オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。

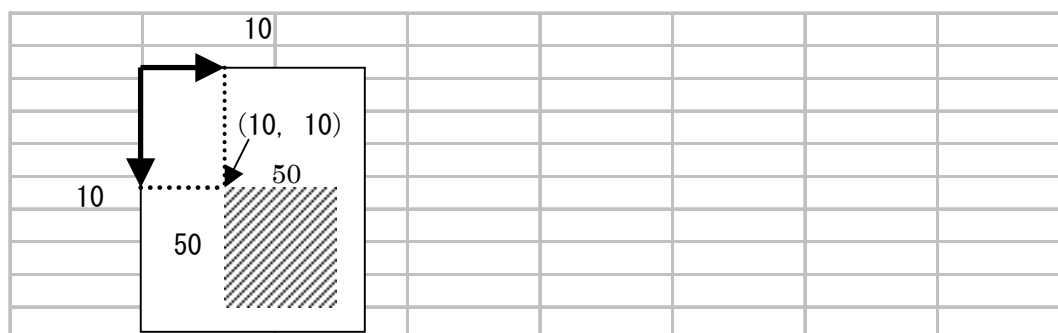
※オプションの詳細についてはオプションの項目を参照ください。

例 2 : 入力ファイル [BarSample2.xls] の指定された読み取り検索領域を検索し、縦方向に Code128 のバーコードの読み取りを行い、バーコード情報を出力ファイル [tes2.csv] に出力します。

> XLS3BAR BarSample2.xls -Otes2.csv -BDIR90 -BTYPcode128 -BSX10 -BSY10 -BSW50 -BSH50

XLS3BAR : 実行モジュール名
BarSample2.xls : 入力ラスタデータ名
tes2.csv : バーコード情報を出力するファイル名

-O : 変換結果を出力するファイル名を指定するオプション。
-BDIR90 : 縦方向バーコードを読み取ります。
-BTYPcode128 : Code128 バーコードを読み取るよう指定します。
-BSX10 -BSY10 -BSW50 -BSH50 : 左上から右に 10mm、下に 10mm の地点を起点にし、幅 50 mm、縦 50 mm の範囲にあるバーコードを検索します。



バッチ変換

バッチオプションを使用して、指定したファイル又はディレクトリ内のファイルの一括処理が可能です。バッチファイルを作成後、次のような形式でコマンドラインに入力します。

実行モジュール名 -BATCH バッチファイル名

[バッチファイルのサンプル]

エディターを開き以下の要領でバッチファイルを作成します。作成後、任意のファイル名でカレントディレクトリに保存してください。

1つのファイルを違うパラメータで違うファイル名で変換します。

```
>Sample.xls -Osample1.csv -BDIRO -BTYP0
```

```
>Sample.xls -Osample2.csv -BDIR1 -BTYP1
```

例：変換内容に合わせてバッチファイルを作成後“batch.txt ”という名前で保存します。

> **XLS3BAR -BATCHbatch.txt**

XLS3BAR	： 実行モジュール名
batch.txt	： バッチファイル名
-BATCH	： バッチ処理を行うオプション

実行時のオプション

XLS3BAR には、変換時に指定できる様々なオプションが用意されています。

- ・オプションは、「-」で始まります。
- ・オプションには、大文字/小文字の区別はありません。
- ・パラメータがある場合は、空白を開けずにオプションの直後に指定します。
(例) オプションが「-0」、パラメータが「file」の場合:
 (正) -0file
 (誤) -0 file
- ・複数のオプションを同時に指定する時は、それらを空白で区切ります。
- ・オプションを指定する順番は、処理の内容には影響しません。

入出力ファイルに関するもの

- O[filename]** : 解析したバーコード情報を出力するファイル名を指定します。
※デフォルトの出力先は標準出力です。
- U[in_atr_name]** : 入力属性ファイル名 (初期値: xls_bar_in. atr)
入力ファイルのデコード処理用のパラメータを設定するファイル。
- Z[atr_name]** : 出力属性ファイル名 (初期値: xls_bar. atr)
バーコード認識処理用のパラメータを設定するファイル。

バーコード読み取りに関するもの

- BDIR[dir]** : 読み取るバーコードの方向を指定します。
- ・ **-BDIR1** 又は **-BDIR0** 左から右
 バーコードを左から右方向に読み取ります。
 (初期値)
 - ・ **-BDIR2** 又は **-BDIR180** 右から左
 バーコードを右から左方向に読み取ります。
 - ・ **-BDIR4** 又は **-BDIR270** 上から下
 バーコードを上から下方向に読み取ります。
 - ・ **-BDIR8** 又は **-BDIR90** 下から上
 バーコードを下から上方向に読み取ります。
- ※ 複数の方向を組み合わせて指定する事が出来ます。
(例: -BDIR0, 90, 180, 270 4方向全て)



-BTYP[typ]

- : 読み取るバーコードのタイプを指定します。
- BTYPJAN13 : JAN/EAN 13 桁
 - BTYPJAN8 : JAN/EAN 8 桁
 - BTYPJAN : JAN/EAN 13 桁又は 8 桁
 - BTYPCODE39 : Code39
 - BTYPCODE128 : Code128
 - BTYPITF : ITF
 - BTYPNW7 : NW-7
 - BTYPEAN128 : GS1-128
 - BTYPCUSTOMER : 郵便カスタマバーコード
 - BTYPRSS : GS1 DataBar
 - BTYPQR : QR コード
 - BTYPPDF417 : PDF417
 - BTYPBLANK : 白紙ページの検出
 - BTYPANY : RSS、PDF417 以外の全て(初期値)
 - BTYPALL : 全て

複数のタイプを指定する事も出来ます。この場合、名称を「,」で区切って複数指定してください。

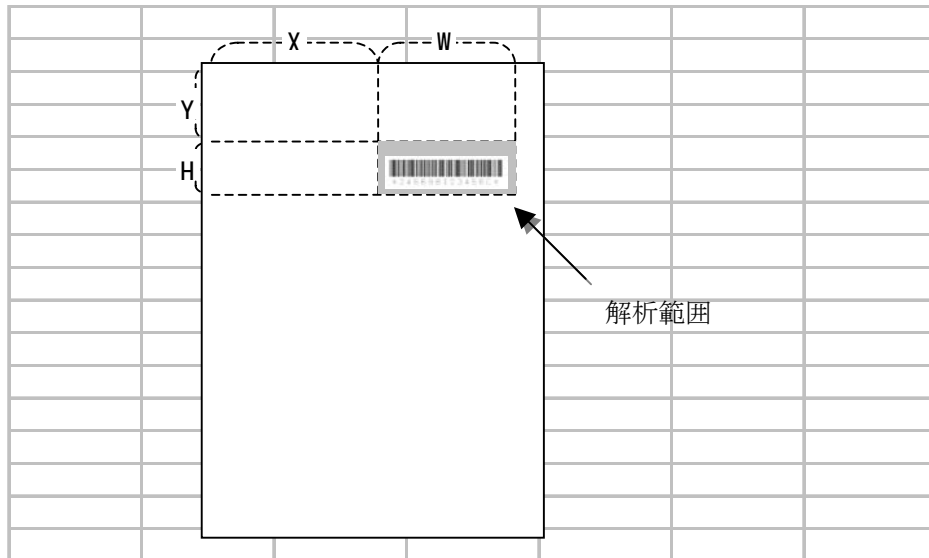
(例) JAN と ITF の場合: -BTYPJAN, ITF

- ・名称の代わりに以下の番号でタイプを指定する事も出来ます。
この場合、指定するタイプの番号を合計したものを指定します。

(例) JAN と ITF の場合、 $3 + 128 = 131$ なので、-BTYP131 を指定

番号	名称
1	JAN13
2	JAN8
3	JAN
16	CODE39
64	CODE128
128	ITF
256	NW7
512	EAN128
1024	CUSTOMER
2048	RSS
65536	QR
262144	PDF417
536870912	BLANK

- BSX[X], -BSY[Y]** : バーコードの読み取り開始位置を指定します。
 左上を起点とし、右に Xmm、下に Ymm の地点を開始位置とします。
- BSW[W], -BSH[H]** : バーコードの読み取り範囲を指定します。
 -BSX, -BSY で指定された地点から幅 Wmm、高さ Hmm の範囲を検索範囲とします。



※ -BSX, -BSY, -BSW, -BSH の指定がない場合、入力イメージの全範囲を検索範囲とします。

- N[sheet]** : 入力 EXCEL ファイルに複数のシートが存在する場合、処理するシートを指定します。
- N0 : 全シートを処理 (初期値)
 - N3 : 3 枚目シートのみ処理
 - N3-5 : 3 枚目から 5 枚目シートまで処理
 - N-5 : 1 枚目から 5 枚目シートまで処理
 - N5- : 5 枚目から最終シートまで処理
 - N3, 5 : 3 枚目シートと 5 枚目シートの処理

セキュリティに関するもの

- UNLOCK[pass_file]** : パスワード解除用ファイル名
 テキスト形式のファイル内にセキュリティ解除用のパスワードを記述します。
 解除可能なのは EXCEL の読み取りパスワードによるセキュリティのみです。

バッチ処理に関するもの

- BATCH[batch_file]** : バッチファイル名
 指定されたファイル又はディレクトリ内のファイルを一括処理したい時に利用します。

制限事項

◆ 動作条件について

EXCEL ファイル内の、図の数、サイズ、TIFF 化する時の解像度によっては、中間 TIFF ファイルのサイズが大きくなり、ディスク容量が不足して正常に解析が出来ない場合があります。そのような場合は解像度を下げる等を行ってください。
※テンポラリフォルダを使用します。入出力ファイルのあるディスクではありません。

Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバーの複合要因であり発生した場合、原因の特定及び回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生する事がありますので、定期的な Windows 再起動を奨励いたします。

◆ -XML で作成したファイルの対応ビューアーについて

-XMLR1REKI, -XMLLOG で出力された XML ファイルの閲覧に関して
"Microsoft Internet Explorer 6.0"(IE6.0)のご使用を推奨します。

ブラウザ	表示	備考
Internet Explorer 6.0	○	
Internet Explorer 5.xx	△	MSXML 3.0 のインストールで可 (マイクロソフトのサイトで公開)
Netscape Navigator 4.xx	×	
Netscape Navigator 6.0	○	

◆ 多重起動について

XLS3BAR の製品を同一 CPU 上で多重起動する事は出来ません。
多重起動が原因で発生した問題等についてサポートは出来ません。
また、別の弊社の製品と組合せて使用する場合も同様となります。

◆ バーコードの認識について

- ・ キャラクタ構成が規格に準拠していないバーコードは検出できません。
- ・ イメージに含まれるバーコードに似たパターンを、短いバーコードとして検出してしまう事があります。このような現象の多くは、検出するバーコードの種別を制限したり、BAR_DIGITS で桁数の範囲を指定する事により回避できます。ITF と NW-7 については、それぞれ ITF_MIN 及び NW7_MIN でも最低桁数を指定できます。
- ・ 1次元バーコードは、少し斜めになっても認識する事が可能ですが、斜め 45 度など大きく傾いている場合は認識できません

◆ JAN について

- ・チェックデジットの部分もデータとして出力されます。
- ・EANコードも、バーコード種別上はJANと表示されます。
- ・UPC-Aは、先頭に「0」が付加された13桁のEANコードとして認識できます。UPC-Eは認識できません。

◆ Code128 について

検出するバーコードのタイプとしてEAN128が指定されていて、スタートキャラクタの次にFNC1のあるCode128のバーコードを検出した場合、それをUCC/EAN128と認識し、以下の処理が行われます。

- ・スタートキャラクタの次のFNC1は削除。
- ・2個目以降のFNC1はGS文字(ASCIIコード29)に置換。
- ・FNC2~FNC4は削除。

上の条件に当てはまらない場合、Code128に含まれるFNC1~FNC4は、全て無視されます。

◆ GS1 DataBar について

- ・チェックデジット、アプリケーション識別子の部分もデータとして出力されます。
- ・イメージに含まれるバーコードに似たパターンが極端に多い場合、バーコードが正しく認識されないことがあります。

◆ QRコードについて

- ・モデル1には対応していません。
- ・分割されたQRコードの連結は行いません。
- ・漢字などの複数バイト文字はシフトJISでエンコードされているものとします。

◆ PDF417 について

- ・マクロPDF417には対応していません。
- ・漢字などの複数バイト文字はシフトJISでエンコードされているものとします。

動作環境

◆対応 OS

Windows 2000/XP/Server 2003

※ 使用する PC に MS-OFFICE がインストールされている必要があります。

◆対応する MS-EXCEL

Microsoft Excel 97/2000/2002/2003

標準価格

XLS3BAR : 35 万円 (税抜き) / 本